

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレットより —

まとめ 比爪と平泉の関係(四)

まとめますと、平泉と比爪の関係も固定された主従の関係ではなく、比爪も独自の基盤を有する自立性の高い地域権力と評価するのが妥当です。12世紀当時、長子相続は確立しておらず、本家、分家といった概念も近世以降のような強い束縛はありませんでした。兄弟関係、本家・分家関係であっても、器量や実力のある者が、主導権を持ち勢力を伸張していくという時代です。

しかし、これは比爪と平泉の対立関係を示すものではありません。両者の協力、協調関係があったからこそ、広大な勢力範囲を約100年近くの間、統治することができたと評価すべきです。

《《《 10～11月行事予定のお知らせ 》》》

| | | |
|---------------------------|------------------|---|
| <p>○ 10月15日 (水曜日)</p> | <p>第56回月例懇話会</p> | <p>午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：金濱興一 テーマ：志賀理和気神社 3 発表者：石幡信 テーマ：秀衡街道(平和街道)を巡って</p> |
| <p>11月30日 (日曜日)</p> | <p>第13回定期講演会</p> | <p>時刻 午後1時30分から午後3時30分まで (受付午後1時から) 会場 紫波町赤石公民館 講師 八木光則氏 演題 未定(比爪氏～斯波氏関係) 参加料 200円(会員外500円)当日受付 参加申込み 10月末日までに、FAXで 019-676-3999 赤石公民館へ</p> |

～～～ 羽柴直人先生と行くツアー 成果を上げて無事終了 ～～～～～～～～～

○ 紫波町観光交流協会と関連4団体の共催で計画した青森・秋田方面1泊2日の研修旅行が大きな成果を上げ終了しました。強行日程でしたが全員無事帰着でき感謝しています。

9月2日 赤石公民館を定刻出発し東北道を一路北進。羽柴先生のお話を聞きながら一戸・二戸・三戸……七戸と北へ向かった“牧”の存在を実感しました。

七戸町では、教育委員会の小山さんの熱心な案内で、平安末期の常滑の壺が出土した積石塚遺構や、廃校舎を使った文化交流センター(展示・研修施設)と国指定史跡の七戸城などを巡りました。「紫波町にも彼のような熱血漢がいれば、高水寺城の国指定は直ぐ実現！」が皆の声。夜は、羽柴先生を囲んで懇談。話が弾み講談あり歌ありの楽しい時間となりました。

9月3日 8時出発で青森へ。アスパム13階の展望台では、年間でも稀という素晴らしい眺めに恵まれ、雄大なパノラマを満喫。場所が特定されていない奥大道の終点「外ヶ浜」を、それぞれに思いをめぐらし展望することができました。

その後、比爪と同じかわらけが出土した、国指定史跡浪岡城と矢立廃寺跡へ、奥大道をなぞって南下。浪岡城は、町が青森市と合併し担当者が常駐しなくなったため、調査・整備が停滞しているようでした。矢立廃寺跡は道が分らずからず難儀しましたが、大館郷土博物館の方の誘導で現地で説明を受けることができ館内も見学しました。

奇しくも泰衡の命日ということで、最後に立ち寄った泰衡を祭る錦神社は、例大祭・直会の中で地域の方々から歓迎されながら参拝しました。市から私たちの情報を得て待機していた町内会長さんから地元の取り組みなどもお聞きし、想定外の思い出となりました。

【第9・10次発掘調査(6)】 紫波町文化財調査報告書第24集 比爪館 第9・10次発掘調査報告書<紫波町教育委員会(平成4年3月30日発行)>から

4 溝

北調査区では西側を南北に走る平行した2状の溝その他を、南調査区では東西にやはり平行して走る2組の溝その他を検出、調査した。北調査区の溝SD-117・118はⅢ区～Ⅵ区及び第7次調査区域にまたがって走っており、調査はつごう5回に分けて実施したことになる。

(162頁)

溝の遺構からは数千点の遺物が出土したと思われませんが、実測図と写真はSD-118・119・120の出土かわらけ5点とSD-118の石臼のみです。それゆえ今回は出土遺物に関する記述を要約して掲載することにしました。

①SD-115溝-1 少量の土師器、かわらけが出土。装飾品と思われる筒状の土師製品の一部も出土。

①SD-115溝-2 埋土の各層から多量の須恵器片、土師器片、赤焼片、かわらけ片が出土している。

②SD-116溝 自然堆積の埋土のいずれの層からも、多量の土師器片、赤焼片、かわらけ片が出土。

③SD-117溝 総点数 4,000近い多量のかわらけ小片、土師器片、赤焼片、若干の須恵器片、磁器片、微量の陶器片が出土。

(第1層) 土師器その他は少なく、かわらけが圧倒(ロクロ小皿が多い)15世紀頃?の瀬戸系陶磁器、器種不明の舶載青磁、白磁各1点、14世紀頃?の中国青磁皿底部と碗底部付近、器種等不明の白磁各1点。

(第2層) 出土総量が少ない。碗形の手捏ねかわらけ数点、小皿形のロクロかわらけ、全体器系・時期不明の薄い白磁小片1点。

(第3層) 出土総量が最も多い。碗形、小皿形とも多数の手捏ねかわらけを確認。12～13世紀?の青磁碗の口縁部片と同安窯系?青磁碗の小片、15世紀の青磁碗口縁部各1点。10世紀代の遺物は第2層より大分少ない。

(第4層) 出土総量は第3層とほとんど同量と多い。かわらけは、ふたたびロクロのみになるが碗形も比較的多い。15世紀～?の瀬戸系陶片、白磁の小皿体部片・口縁部片。土師器その他の10世紀代遺物の出土点数は、この層位がもっとも占める比率が高い。

④SD-118溝 出土遺物少量。小皿・碗形のロクロ・手捏ねかわらけ、白磁小片3点。南半部底面から石臼が出土。

⑤SD-119溝 出土遺物少量。若干のかわらけ細片、中国青磁?小片。

⑤SD-120溝・121溝～記載なし

⑥SD-122溝 70点程の土器片。10世紀代の土師器・須恵器が6割で、手捏ねかわらけは皆無。13世紀?の白磁耳付壺肩部小片、14世紀後半～15世紀代青磁小形碗口縁部小片も出土。

⑦SD-123溝 土師器もしくは赤焼小片4点、ロクロかわらけ4点。13世紀?の青磁縞蓮弁文碗の口縁近くの体部小片1点も出土。

⑧SD-123溝 出土遺物少量。若干のかわらけ細片、中国青磁?小片。

⑨SD-124溝 50点ほどの土器片が出土。10世紀代?の土師器等破片20ほど、他はロクロかわらけ。他に須恵器系の中世陶器2片、瀬戸系1片、白磁小片2点、骨片(馬の歯?)も出土。

⑩SD-125溝 少量の土器片。土師器片8点、ロクロかわらけ片5点。

